

〔科目名〕 財政学		〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 選択必修		
〔担当者〕 木立 力		〔オフィス・アワー〕 時間:開講時にお知らせします 場所:木立研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 <p>ミクロ経済学で扱われる「市場の失敗」の考え方によると、政府の経済活動は、市場を補完する活動と位置付けられる。経済学科の科目『公共経済学』はこのようにミクロ経済理論に基づいて政府の経済活動を分析する。</p> <p>それに対して財政学では、①財政支出、租税や地方財政などの制度面や政策面を強調し、②政府のマクロ経済安定化の役割も扱う傾向がある。それに加えてこの講義では、日本で話題になっている税や財政の最新の話題を取り扱うことによって、「経済学」を学ぶだけではなく「現実の経済」を「経済学」によって考察できることを目指している。次の諸項目などを扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の日本は総供給と総需要のどちらが不足しているのか。その場合にどのような政策が望ましいか。 ・日本銀行はどのような金利水準を目指すべきなのか。 ・基礎的財政収支とドーマー条件はどのような関係にあるか。 ・インフレによって実質金利が低下するのか名目金利が上がるのか。 ・消費減税の経済や所得分配への影響。 ・年収の壁引き上げの経済や働き方への影響。 						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <ul style="list-style-type: none"> ・「財政学」では政府の経済活動について現実の制度、政策からアプローチして経済学等によって多面的に考察する。 ・「公共経済学」ではミクロ経済理論から政府の経済活動が整理されることになる。 ・マクロ経済安定化については「マクロ経済学」「金融経済学」と関連する。 ・財政支出の最大の項目は社会保障であり、社会保険料は総税収よりも大きい。財政学では講義回数 of 制約があり詳しく述べないが、今後の社会生活の必須知識となるので「社会保障論」を是非履修するように。 ・年収の壁は税制の問題であるが、先進国の中でも特異な正規および非正規の働き方や性別役割分業の課題が背景にある。「労働経済学」でこれらについて学んでほしい。 ・政府の活動の対象となる地球温暖化に見られるように環境問題は人類の課題となっている。これについては「環境経済学」を履修してほしい。 ・地方財政については「地方財政論」で詳しく論じられる。 						
〔科目の到達目標〕 <p>答がある財政問題についてはよく理解し、友人や家族に説明できるようになってほしい。</p> <p>答がない財政問題については自分の考えを持ってほしい。</p> <p>また、この科目を通して、受講後も経済のニュースに常に興味を持ち続けるようになってほしい。</p>						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○			○	○	○	

<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 財政の理論だけではなく、時事的な財政問題を取り入れたことはおおむね歓迎された。今年度も取り上げる。</p>	
<p>〔教科書〕 なし</p>	
<p>〔指定図書〕 なし</p>	
<p>〔参考書〕 林正義(2024)『税制と経済学』 ブランシャール著、田代訳(2023)『21世紀の財政政策』、 鎌田康一郎(2022)『金融論』、 藤木裕(2022)『入門テキスト金融の基礎(第2版)』、 Cecchetti and Schoenholtz (2020) <i>Money, Banking and Financial Markets</i> 渡辺努(2024)『物価を考える』など</p>	
<p>〔前提科目〕 経済学基礎論、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テストと期末試験の結果のみで評価する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義の時間に財政問題について考えることを求め、この科目の受講中も受講後も現実の経済政策のニュースに関心を持ち続けるようになってほしい。 ・その習慣は就職活動でも就職後にも仕事や社会生活に生かされるはずである。 ・受講して楽しかったと思えるような興味深い授業となるよう努めているので、毎回出席してください。 	
<p>〔実務経歴〕 費用便益分析を行う研究所に勤務したことがある。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の経済活動の歴史 内 容: 政府の経済活動は歴史的にどのように変化してきたか。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財政が取り組む3つの機能 内 容: マスグレイブが述べた財政の3つの機能</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の活動についての「市場の失敗」アプローチ 内 容: 経済学基礎論やミクロ経済学で学んだ「市場の失敗」の視点から政府の経済活動を位置づける</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の予算制度 内 容: 日本の一般会計と特別会計や内閣、国会の役割について学ぶ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の財政の現状(1) 内 容: 日本の一般会計の歳入と歳出の特徴について学ぶ 資料; 財務省(2025)「日本の財政関係資料」</p>

第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(2)</p> <p>内 容:毎年の借金である基礎的財政赤字と借金の残高である債務の関係について学ぶ</p> <p>資料:財務省(2025)「日本の財政関係資料」、IMF“Economic outlook”</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(3)</p> <p>内 容:税と社会保険料、社会保障給付費と社会保障関係費の関係を学ぶ</p> <p>資料:財務省(2025)「日本の財政関係資料」</p>
第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか):債券とは何か、国債とは何か、</p> <p>内 容:日本は世界で最も債務比率が高い。債券とは何か、国債とは何か、国債の価格決定。</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか):国債発行による政府支出</p> <p>内 容:国債発行の場合にそのお金はどこから来ているのか</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか):国債は誰が保有しているか</p> <p>内 容:国債を最も多く保有しているのは日銀である</p> <p>資料:日本銀行「資金循環統計」、全国銀行協会「全国銀行の貸借対照表」</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか):潜在 GDP と GDP ギャップ:IS 曲線と自然利子率(中立金利)、フィッシャー方程式</p> <p>内 容:潜在 GDP と GDP ギャップについて学ぶ:IS 曲線と自然利子率(中立金利)、フィッシャー方程式について学ぶ</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか):フィリップ曲線、GDP ギャップ、テイラールール</p> <p>内 容:フィリップ曲線、GDP ギャップ、テイラールールについて学ぶ</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日銀の政策目標とテイラールール</p> <p>内 容:日銀の政策目標とテイラールールについて学ぶ</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日銀の国債保有とマネタリーベース、マネーストック</p> <p>内 容:日銀が国債を大量に保有しマネタリーベースが拡大しているのになぜインフレにならないのか。マネタリーベースとマネーストックの区別によって学ぶ</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):マイナスの自然利子率のもとでの政策</p> <p>内 容:マイナスの自然利子率はなぜおこるのか、マイナスの自然利子率の場合の政策はどのようなものか</p> <p>参考書:Cecchetti and Schoenholtz (2020)Money, Banking and Financial Markets</p>
第 16 回	<p>テーマ(何を学ぶか):これまでの復習</p> <p>内 容:これまでの復習と小テスト</p>
第 17 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パレート最適と厚生経済学の第 1 基本定理、第 2 基本定理</p> <p>内 容:パレート最適と厚生経済学の第 1 基本定理、第 2 基本定理についてエッジワースボックスを用いて学ぶ</p>
第 18 回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場での価格決定とワルラス法則</p> <p>内 容:エッジワースボックスを用いて市場の価格決定とワルラス法則について学ぶ</p>

第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の失敗の一例、外部性とピグー税、</p> <p>内 容:負の外部性がある場合にピグー税によって総余剰はどう変化するか</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の失敗の一例、自然独占</p> <p>内 容:自然独占がある場合の平均費用価格、限界費用価格について学ぶ</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):課税の理論(1)</p> <p>内 容:税の転嫁、帰着。中立、公平、簡素、ラムゼールールについて学ぶ</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):課税の理論(2)</p> <p>内 容:応益説と応能説、能力への課税:消費、所得、資産</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):予算線、無差別曲線の復習</p> <p>内 容:予算線、無差別曲線の復習</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):物品税の超過負担、労働所得税の超過負担</p> <p>内 容:物品税の超過負担、労働所得税の超過負担について学ぶ</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働所得税と労働供給</p> <p>内 容:労働所得税と労働供給について学ぶ</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の個人所得課税</p> <p>内 容:日本の個人所得課税について学ぶ</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の個人所得課税と年収の壁</p> <p>内 容:年収の壁について学ぶ</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会保険の壁</p> <p>内 容:社会保険の壁について学ぶ</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか):年収の壁と正規雇用、非正規雇用</p> <p>内 容:年収の壁と正規雇用、非正規雇用について学ぶ</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか):生活保護と給付付き税額控除</p> <p>内 容:生活保護と給付付き税額控除について学ぶ</p>
試 験	<p>第 16 回から第 30 回を範囲とする試験、マークシートと記述 講義資料の持ち込みは不可です。</p>